

令和6年産 果樹情報（第5号）

令和6年8月9日
宮城県大河原農業改良普及センター

高温・乾燥等に注意して管理を行いましょう。

- ・地色の抜けや果肉の軟化等、果実の成熟状況に注意し、適期収穫に努めましょう。
- ・ハダニ類、カメムシ類等の発生に注意しましょう。

1 気象経過

7月は高気圧に覆われて晴れる日もありましたが、低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。月平均気温は「かなり高い」、月降水量は「平年並」から「少ない」、月間日照時間は「平年並」となりました。（仙台湾気象台 7月の天気より）

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

表1 りんご・なし（8/9調査）の果実肥大状況（単位：mm）

樹種	品種	調査地点	令和6年		令和5年		平年値		平年比（%）	
			タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ
りんご	ふじ	白石・郡山	62.8	70.1	62.4	69.1	62.1	67.4	101	104
なし	幸水	角田・豊室	72.4	89.4	71.9	87.8	62.4	75.2	116	119
		蔵王・高木	65.3	79.6	70.6	78.7	59.6	71.1	109	112
	豊水	角田・豊室	71.8	83.2	72.4	81.6	61.4	70.2	117	118
		蔵王・高木	64.9	72.8	64.5	73.4	57.1	64.6	114	113

3 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 葉摘み

果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に注意して実施してください。早期の葉摘みや、果実温度が上がっていない早朝に葉摘みを行うと日焼けを起こしやすいので、出来るだけ果実温度が上がった日中に実施しましょう。

ロ 夏季管理

中晩生品種の修正摘果や支柱立て、枝つり等を行い、樹冠内部の受光体制の改善や防除効果の向上を図ります。収穫前落果の多い品種には、落果防止剤を散布しましょう。

ハ 病害虫防除

・斑点落葉病、褐斑病、炭そ病

斑点落葉病の発生予報は「やや多」となっています。降雨前に十分な散布量を確認し、ムラのないように散布してください。

・ハダニ類

高温・乾燥が続くと発生量が急増するので、園地内での発生状況に注意し、1葉あたり1頭確認されたら殺ダニ剤を散布しましょう。

- ・モモシンクイガ

6月初旬頃～9月上旬頃まで発生が続くので、定期的に防除しましょう。

(2) 日本なし

イ 幸水、豊水の収穫

- ・熟期は、短果枝の果実は早く、長果枝の果実はやや遅い傾向があります。
- ・幸水は果皮色の進み具合に比べ、果肉熟度の進展が早いので、過熟果とならないよう適期収穫に努めましょう。また、福島県の生育予測によると「幸水」の収穫盛期は平年より8日早い見込みです。
- ・豊水は適熟期の収穫に努め、同一樹でも主幹から2m以内の果実は熟期が遅れるので、数回に分けて収穫します。ただし、収穫遅れのないように注意しましょう。
- ・収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され、芯腐れ果が発生しやすくなります。できる限り気温の低い時間帯に収穫し、収穫後は、果実温度が上がらないよう速やかに涼しい場所に移し保管しましょう。

ロ 病害虫防除

- ・黒星病

病斑のある葉や果実は見つけ次第取り除き、地中に埋めるなど適切に処分しましょう。また、発生が多い園地では、秋季防除を必ず実施しましょう。

- ・ハダニ類

高温・乾燥の影響で発生が多くなっています。園地内での発生状況に注意し、1葉あたり1頭確認されたら殺ダニ剤を散布しましょう。

- ・ナシヒメシンクイ

年4回、4月上旬から9月末まで発生します。例年9月上旬が発生のピークで、8月下旬が防除適期になりますが、残暑が厳しい場合は、成虫発生時期に注意して薬剤防除を実施します。

(3) もも

イ 晩生品種の収穫

収穫前に降雨が多い場合や核に障害のある果実は、果肉の成熟が早まる傾向があるので、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないように注意します。

ロ 病害防除

- ・せん孔細菌病

発生園地では、収穫後の9月上旬から薬剤散布を2週間隔で計3回行います。

4 果樹カメムシ類

県病害虫防除所の7月下旬の巡回調査の結果では、りんごの発生地点率はほぼ平年並でしたが、被害果率は平年より高く、過去10か年で最も高くなりました(図1)。また、なしでは、発生地点率及び被害果率は平年より高く、いずれも過去10か年で最も高くなっています(図2)。果樹カメムシ類の被害が懸念される地域では、ジアミド剤以外で果樹カメムシ類やチョウ目害虫に効果のある殺虫剤を使うようにしてください。また、薬剤散布は、果樹カメムシ類の活動が鈍い早朝に行うと効果的です。特に、8月以降は、クサギカメムシが増える傾向があるので、成虫が見られた場合は速やかに防除しましょう。

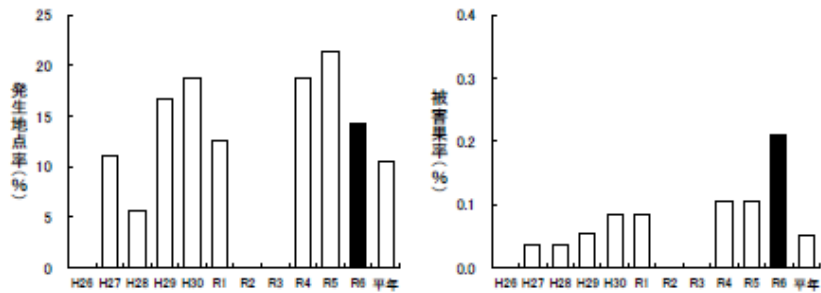


図1 果樹カメムシ類による被害果の発生地点率及び被害果率(りんご)
(病害虫防除所 7月下旬調査(平成:10か年平均))

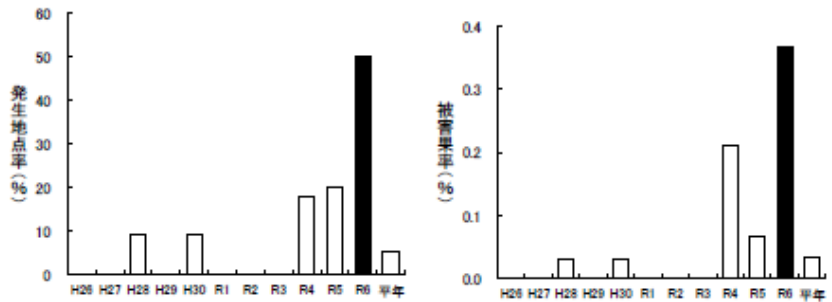


図2 果樹カメムシ類による被害果の発生地点率及び被害果率(なし)
(病害虫防除所 7月下旬調査(平成:10か年平均))



クサギカメムシ チャバネアオカメムシ
写真1 県内における主要果樹カメムシ類



写真2 果樹カメムシ類による被害果
(左)りんご、(右)なし

5 高温にかかる技術対策

- 草生園では、草生の刈り取り回数を増やし（草丈 15～20cm を目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぐようにし、刈り取った草は樹冠下に敷草してください。
- 不要な徒長枝は切除しますが、主枝や亜主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残して直射日光が当たらないようにし、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止措置を講じましょう。
- 7日程度、無降雨状態が続いた場合、20mm（20 t /10a）程度を目安にかん水してください。かん水設備がない場合でもスピードスプレーヤ等で水を運搬してかん水するようにしましょう。
- 果実の着色不良で過熟とならないよう果実の品質（糖度や硬度）や食味等を考慮して適期収穫に努めましょう。

- ★ 高温時の作業は避けましょう
- ★ 単独作業は避けましょう
- ★ 20分おきに休憩&水分補給しましょう